

令和4年度 第2回まちづくりミーティング

日時：令和5年2月14日（火）15：30～16：45

場所：福知山公立大学（福知山市堀3370）

4号館1階メディアセンター会議室

団体：福知山公立大学（起業に関わる公立大学の学生）

出席者：福知山市長 大橋 一夫

福知山公立大学地域経営学部 亀井教授

地域経営学部 田村さん、小澤さん、矢野さん、

情報学部 小玉さん、乗島さん、市長

○主な話し合いの内容

テーマ「福知山公立大学の学生起業の現状」

- ・学生が起業した会社の事業内容、取組についての意見交換 等

学生：それぞれが取組んでいる事業の内容、事業を始めた動機やきっかけ、成果などを説明

【学生からの説明に関する意見交換】

市長： 起業するということは収益を上げるということ。インターンシップ事業でどのように収益を上げているのか。ビジネスモデルはどうなっているのか。

小玉： 企業にインターンシップの企画などを提案、実施し、料金を支払ってもらっている。

市長： 自社の成長はどのように測っているのか。採算はとれているのか。

小玉： インターンシップ支援事業は収益率が低い。現在は、サイト制作など別の事業で収益を確保している状況。市長のおっしゃるとおり、採算がとれるビジネスモデルにすることが課題。

市長： 子ども食堂から、NEXT、人材派遣会社からの流れは繋がっているのか。

小澤： キッチンカーは後輩にしっかりと引き継ぎたい。

矢野： 2020年4月に大学から独立した。コロナの影響で活動が思うようにできなかった。

市長： 収益が見込めるプロジェクトはあるのか。

矢野： 藍プラスプロジェクトは商品を制作しているので、それが売れるようになったら収益が出るかもしれない。

市長： どこかに畑を借りているのか。

矢野： 一宮神社の近くに畑を借りている。

市長： いま事業継承で但馬信金さんと一緒に事業をされている。自分自身が、ご両親がされている学習塾を継ごうとされている。ソーシャルインパクトボンドは誰が出すことになるのか。

田村： 行政だと考えている。不登校児童の問題は、長い目で見てその方がきちんと自立して働けるように成長することがよいのではないか。

市長： みなさんは先のことまでよく考えてくれている。NEXTの参加者もいるということで、収益の話もさせていただいた。

○将来展望、こんな社会にしたい、今後の福知山との関りについて

小玉： 情報格差や地域格差といったことで、成長が妨げられない社会にしたい。インターンシップ支援のモデルを確立させたい。学生団体やサークルでの活動が一般的ではあるが、もう一つの選択肢として起業があることを伝えていきたい。

乗島： これまで周囲の大人の方々に支えてもらって成長してきたと思うので、学生と大人の方々が繋がれる場所をつくっていきたい。

矢野： 高校時代から何か事業をしたいと考えていた。自分のお葬式にたくさん参列してもらえるようになりたい。

田村： 家業を継いで事業を拡大させたい。NEXTで取組んできたことを活かしたい。

小澤： 人材育成のモデルを確立させ、福知山市、NEXTに広げていきたい。福知山市とコラボレーションしたい。

亀井： 5年前に東京で同じようなミーティングをした覚えがある。20代の若者が参加していた。自分はエンジニアであるが完全栄養食を実現したいという方がいらした。その方は現在その事業で上場している。ダークホースという本がある。その本は個性の発揮と充足感が卓越へのルートを短縮すると述べている。個性の発揮をするためには、最初の一步を踏み出す必要がある。ここにいる5人は学生時代にその一步を踏み出したというところで称賛に値する。教育現場は機会の創出とプログラムの充実が必要。

